

Semaines des CAHIERS DU CINEMA

Où est le cinéma aujourd'hui?

カイエ・デュ・シネマが選ぶ
フランス映画の現在

2018.12.15 Sat - 27 Thu

会場: ユーロスペース



上映スケジュール

*やむをえない事情により作品及び上映時間が変更される場合がございます。
「作品解説は」上映前に行います。

	14:00	16:40	18:30
15日[土]	レット・ザ・サンシャイン・イン (95分) ★上映後、トークあり 須藤健太郎(映画批評家)	ヴィクトリア (97分)	ソルフェリーノの闘い(94分)
16日[日]	ジャネット・ジャンヌ・ダルクの幼年期(105分) ★作品解説有	パーク (72分) ★作品解説有	ジョセフの息子(115分) ★作品解説有
17日[月]	ジャングルの掟(99分)	7月14日の娘(88分)	さよならは言わない(99分)
18日[火]	ジョセフの息子(115分)	パーク (72分)	ヴィクトリア (97分) ★上映後、トークあり 五所純子(文筆家)
19日[水]	14:00 プティ・カンカン(200分)		18:40 ジャングルの掟(99分)
20日[木]	14:00 さよならは言わない(99分)	16:20 ヴィクトリア (97分)	18:40 レット・ザ・サンシャイン・イン(95分)
21日[金]	14:00 7月14日の娘(88分)	16:20 ジャングルの掟(99分)	18:40 ソルフェリーノの戦い(94分)
22日[土]	14:00 ジャネット・ジャンヌ・ダルクの幼年期(105分)		16:20 プティ・カンカン(200分)
23日[日]	14:00 キングス&クイーン(150分) ★作品解説有	16:50 パリ、18区、夜。(109分) ★作品解説有	19:00 レット・ザ・サンシャイン・イン(95分)
24日[月]	14:00 クリーン(111分)	16:20 ホーリー・モーターズ(115分)	18:40 ジャネット・ジャンヌ・ダルクの幼年期(105分)
25日[火]	14:00 プティ・カンカン(200分)		18:00 キングス&クイーン(150分)
26日[水]	14:00 キングス&クイーン(150分)	16:50 クリーン(111分)	19:00 パリ、18区、夜。(109分)
27日[木]	14:00 パリ、18区、夜。(109分)	16:10 ホーリー・モーターズ(115分)	18:25 クリーン(111分) ★上映後、トークあり 三宅唱(映画監督)

カイエ・デュ・シネマが選ぶ フランス映画の現在

2018.12.15 Sat - 27 Thu 会場: ユーロスペース

Semaines des CAHIERS DU CINEMA

Où est le cinéma aujourd'hui?



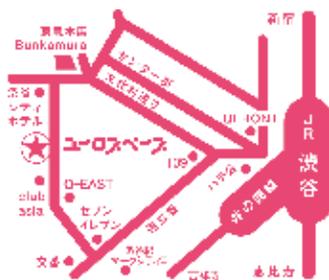
フランス・伝説的映画雑誌
「カイエ・デュ・シネマ」による、
現代フランス映画、
珠玉の14作品!!

Guest Talk [登壇順]

須藤健太郎(映画批評家)

五所純子(文筆家)

三宅唱(映画監督)



ユーロスペース
EUROSPACE

[渋谷・文化村前交差点左折]
〒150-0044 東京都渋谷区円山町1-5 KINOHAUS3F
TEL. 03-3461-0211 <http://www.eurospace.co.jp/>

チケット [全席指定・定員入替制]

1回券 1500円

リピーター割引 1000円

学生・会員・シニア 1200円

主催: ユーロスペース/一般社団法人コミュニティシネマセンター
共催: アンステイチュ・フランス日本 助成: アンステイチュ・フランス/パリ本部
フィルム提供及び協力: バック・フィルム、フィルム・デュ・ロザンジュ、フラインフィルムズ、
リュックボックス、フレイトタイム、GAGA、オリヴィエ・アサヤス
特別協力: カイエ・デュ・シネマ、マーマイドフィルム、同志社大学今出川校地学生支援課



日仏交流60周年
60^e Anniversaire
des relations
franco-japonaises

<http://jc3.jp/filmsfrancais/>

Semaines des CAHIERS DU CINEMA

Où est le cinéma aujourd'hui?

上映作品 *全作品日本語字幕付

クレール・ドゥニ監督の新旧2本!



レット・ザ・サンシャイン・イン

2017年/95分/DCP
監督:クレール・ドゥニ
出演:ジュリエット・ピノシュ、グザヴィエ・ボーヴォワ、ジュラル・ドバルデュ
名匠クレール・ドゥニ監督が描く、大人の恋愛コメディ。監督が「ピノシュ以外にあり得ないと確信」したという主演のジュリエット・ピノシュが、真実の愛を求めるシングルマザーのアーティストを熱演。ドゥニ映画ならではの美しいダンスシーンも必見。カンヌ映画祭監督週間SACD賞受賞。



パリ18区、夜。

1994年/109分/35ミリ
監督:クレール・ドゥニ
出演:カテリーナ・ゴルベヴァ、ペアトリス・ダル、ソルヴェイグ・ドマルタン
リリアンから、叔母を頼ってパリにやってきたダイガは、18区の安ホテルで清掃の仕事始める。そこには、音楽家のテオとその妻子、テオの弟でゲイクラブのダンサー・カミーユと恋人ラファエルらが住んでいる。実際にあった老女連続殺人事件を中心に、人種の垣根パリ18区に暮らす人々を描いた群像劇。クレール・ドゥニ、初期の傑作。

奇才、ブリュノ・デュモンの最近作



ジャネット、ジャンヌ・ダルクの幼年期

2017年/105分/DCP
監督:ブリュノ・デュモン
出演:リーズ・ルブラ、ブリュム、ジャンヌ・ヴォワザン、リュシル・グーティエ
詩人・思想家のシャルル・ベギーによるふたつの文献を元に、聖女ジャンヌ・ダルクの幼年期(8歳のジャネットが成長し、故郷ドンレミ村を後にするまで)をミュージカルで描く。カイエ誌は「不純で、奇妙で、様々なものがいっぱい話っていると同時に、果敢なほどミニマルですばらしい」と絶賛。



プティ・カンカン

2014年/200分/DCP
監督:ブリュノ・デュモン
北フランスの田舎町を舞台に、警察コンビ、少年プティ・カンカンと仲間たちが謎の連続殺人を追う。デュモンは演技経験のない一般人を俳優として起用している。アルテのテレビシリーズとして製作され、カンヌ映画祭で映画版が高い評価を得た。同年のカイエ誌年間トップテン第1位。

カイエ・デュ・シネマが選ぶ フランス映画の現在

フランスの伝説的映画雑誌「カイエ・デュ・シネマ」誌とアンスティチュ・フランセ日本が提携し、現在の映画を語るべく、選りすぐった作品を紹介してきた「カイエ・デュ・シネマ週間」。

今回は、近年の「カイエ・デュ・シネマ週間」で上映された作品からセレクトした作品に加え、カイエ・デュ・シネマ誌が高く評価しつづけてきた監督たちの作品を合わせて、14本を上映します。

現代フランス映画を代表する監督の代表作、最新作から新鋭監督の意欲作まで、まさに「フランス映画の現在」をみることができ、貴重な、魅力的なプログラムです。豪華ゲストによるトークも予定しています。

フランス映画の注目株アントナン・ベレジャトコ監督のコメディ2本!
主演はヴィマラ・ボンス+ヴァンサン・マケーニユ。



ジャングルの掟

2016年/99分/DCP
監督:アントナン・ベレジャトコ
出演:ヴァンサン・マケーニユ、ヴィマラ・ボンス、マチュー・アマルリック
仏領ギニアにアマゾン初のインドア・スキー場建設計画が浮上。そこへ、規範省のインタン、マルクが派遣される。「ターザン」と呼ばれる先輩女性スタッフとマルクはジャングルで道に迷い、「ジャングルの掟」を知る。アクション満載のラブコメディ。



7月14日の娘

2013年/88分/DCP
監督:アントナン・ベレジャトコ
出演:ヴィマラ・ボンス、ヴァンサン・マケーニユ
7月14日、パリ祭。ルーブル美術館の警備員エクトルはトリュケットに出会い、恋に落ちる。ヴァカンスの季節。ふたりは、友人のシャルロットとパトール、シャルロットの弟ベルティエと海をめぐらしてドライブ!しかし、世の中は経済危機の真っ只中。ヴァカンス禁止令が出され…。

失われていく世界への讃歌、ドキュメンタリーの現在



さよならは言わない

2017年/99分/Blu-ray ドキュメンタリー
監督:クリストフ・アグ
零細な農業を営む高齢者たちの過酷な現状を描き、2017年カンヌ国際映画祭ACID部門で注目されたドキュメンタリー。10年以上かけて人々の日常をカメラに収めた監督のクリストフ・アグは癌により45歳の若さで他界。本作が遺作となる。

現代女性を描くジュスティヌ・トリエ監督



ヴィクトリア

2016年/97分/Blu-ray
監督:ジュスティヌ・トリエ
出演:ヴィルジニー・エフィラ、ヴァンサン・ラコスト、メルヴィル・ポボー
人気沸騰中の女優ヴィルジニー・エフィラが、仕事、家庭、恋愛の間で、生き方を模索する現代女性を魅力的に演じ、新世代の注目株ヴァンサン・ラコストもその魅力を十二分に発揮。さらにメルヴィル・ポボーが油断のない二枚目中年役を好演。本国でも大ヒットの恋愛コメディ!



ソルフェリーノの戦い

2013年/94分/Blu-ray
監督:ジュスティヌ・トリエ
出演:レティシア・ドゥッシュ、ヴァンサン・マケーニユ、アルチュール・アラリ
2012年5月、レポーターのレティシアは大統領選の取材の真最中。そこへ、元夫が娘に会いに押しかけ、泣き叫ぶ娘たち、途方に暮れるベビーシッター、通りには歓喜と悲嘆が渦巻く。社会党本部がある「ソルフェリーノ通り」は社会党の代名詞ともなっていた。主演のレティシア・ドゥッシュは、フランスで最も注目される若手女優。

ダミアン・マニヴェルとウジェーヌ・グリーン



パーク

2016年/72分/DCP
監督:ダミアン・マニヴェル
出演:ナオミ・ヴォクト、ロビー、マキシム・バシュルリー、ソペール・セスマ
日仏共同監督作品「泳ぎすぎた夜」が公開されたダミアン・マニヴェルの前作。夏。とある公園で初デートをするふたり。時がたつにつれ距離が縮まっていく。やがて、日が落ち、別れの時間。暗い夜が始まり、公園が異なる表情、位相を見せ始める。



ジョゼフの息子

※D.マニヴェルセクション
フランス=ベルギー / 2016年/カラー / 115分/デジタル
監督:ウジェーヌ・グリーン
出演:ヴィクトル・エゼンフィ、ナターシャ・レニエ、ファブリツィオ・ロンジョーネ、マチュー・アマルリック
思春期を迎えたヴァンサンは、自分の父が冷血で有名な編集者だと知り、復讐を企てる。「グリーンは私にとって、現在もとても重要な映画作家のひとりです。彼の映画を見ると、ロベール・ブレッソン、小津安二郎という彼が若い頃に影響を受けた映画作家たちとの繋がりが見えてくるかもしれません。」(D.マニヴェル)

カイエ・デュ・シネマから生まれた映画作家たち



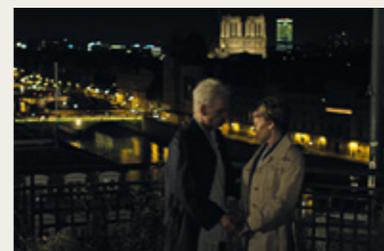
クリーン

2004年/110分/35ミリ
監督:オリヴィエ・アサイヤス
出演:マギー・チャン、ニック・ノルティ、ジャンヌ・パリバル、ペアトリス・ダル
ロック歌手のリーとその妻エミリーにはジェイという息子がいる。リーがドラッグの過剰摂取で命を落とし、エミリーは服役することに。リーの両親に預けられた息子を取り戻すため、エミリーは生活を立て直す決意をする。カンヌ映画祭最優秀女優賞を受賞したマギー・チャンが素晴らしい。



キングス&クイーン

2004年/150分/35ミリ
監督:アルノー・デプレジャン
出演:マチュー・アマルリック、エマニュエル・ドゥヴオス、カトリーヌ・ドヌーヴ、モーリス・ガレル
光り輝く「クイーン」のようなノラは、結婚の前に幸福に包まれていた。が、息子エリヤスを預けていた父が末期の癌であることを知る。ノラは元夫(未入籍)の落ちぶれた「キング」、ミュージシャンのイスマイルを探し、「エリヤスを養子にしてほしい」と頼みこむ…。



ホーリー・モーターズ

2012年/115分/DCP
監督:レオス・カラックス
出演:ドゥニ・ラヴァン、エディット・スコブ
レオス・カラックスが13年ぶりに撮った長編。主演はドゥニ・ラヴァン。オスカー氏は、真っ白なリムジンに乗ってパリ中を回り、クライアントの注文に応じて、大企業の社長、殺人者、物乞い、怪物、そして平凡な父親…、ひとつの人生からもうひとつの人生へと旅を続ける。映画と人生が交錯する。

ヌーヴェルヴァーグの映画作家を輩出した同雑誌で批評を書き始め、後に映画を撮り始めたアサイヤス、カラックス、同雑誌を読み漁り、映画を学び、撮り始めたデプレジャン。彼ら近年の代表作を振り返ります。

